

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

【実践者】

氏名	有賀 早也香	学校名	群馬県 私立 ぐんま国際アカデミー中高等部
担当教科等	MYP Design (技術)	対象学年(人数)	中学 1 年 (93 名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2025 年 10 月～2026 年 2 月 (16 時間)		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域： MYP Design Year 1 / 技術 (材料と加工の技術)		
2. 単元名と単元目標 単元名： 生きがい を形にする – 伝統と革新をつなぐ木のデザイン 単元目標： - 生徒は、木材加工の基礎的な技術を学び、伝統的な宮大工の知恵と現代的なデザインを融合させる力を獲得する。 - 生徒は、タンザニアでの「生きがい」調査を通して、人々の幸せや生き方の多様性を理解し、共感を深める。 - 生徒は、「伝統」と「革新」の関係について考察し、自分や他者の生活をより豊かにするデザインの在り方を探究する。 関連する学習指導要領上の目標： - 材料や工具を用いて基本的な加工・組立を行う技術を習得する。 - 生活や社会における技術の役割を理解し、持続可能な視点から活用できるようにする。 - 課題を発見し、計画・制作・評価を通じて解決する力を育む。		
3. 単元の 評価規準	① 知識・技能	- 木材加工に必要な基礎的な工具の使用方法や安全な作業手順を理解している。 - 宮大工の技術やタンザニアでの事例から学んだ知識を、自分のデザインに活かしている。
	② 思考・判断・表現	「伝統」と「革新」の観点を踏まえて、自分なりのデザインを構想・判断できる。 - 生きがいの考え方を取り入れ、作品や設計仕様書に表現できる。 - 他者と協働しながら、自分の考えを的確に説明・発表できる。
	③ 主体的に学習に取り組む態度	- 新しい知識や異文化に積極的に関心を持ち、学習に活かそうとしている。 - 社会・環境課題やその困難の解決に向けて、自力で取り組んでいる。 - 振り返りを通して自分の学びを改善しようとしている。

4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 ・木材加工の技術は、ものづくりの基礎的技能を身に付ける。 ・日本の宮大工の伝統技術を題材とすることで、単なる木材加工体験にとどまらず、文化的背景や「伝統と革新」の関わりを考える機会になる。 ・「生きがい」調査を取り入れることで、異文化理解を深めながら自分自身の生き方・幸せについて考える機会を持つ。 【単元の意義】 ・技術の学習を「文化」「幸福」「社会」と結びつけ、生活を豊かにするデザインの思考を身につけることができる。 ・「伝統を尊重しながら新しいものを生み出す」視点は、グローバル社会における持続可能な開発やWell-beingの追求と関連づけられる。 ・実体験（木材加工・設計仕様書作成）と価値観探究（生きがい対話）を統合することで、生徒の学びを知識・技能から自己形成へと広げられる。 【児童／生徒観】 ・生徒は「技術＝技能的な活動」と捉えがちだが、そこに文化的価値や人々の生き方を重ねることで、学習が自分の未来のためになっていることに気が付き、意欲が高まる。 ・異文化の価値観に触れることで、自分の考えと比較し、柔軟に発想できる力を育成する。 ・他者から評価してもらうことや、実際に手を動かしてものを作る過程を通して、失敗からの改善や工夫の仕方を学ぶことができる。 【指導観】 ・教師は「技能の習得」だけでなく、「伝統」「革新」「生きがい」といった概念的なテーマを結びつけるファシリテーターの役割を担う。 ・ワールド・カフェや協働的な学習手法を用いて、生徒同士の対話を通じた学びを重視する。 ・成果物（木工作品・設計仕様書）を通じて、知識、思考力、想像力を養う。			
5. 単元計画（全16時間）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	ユニットの導入	○ Thinking skill 関心や直感、観察を言葉にする。 ○ Social skill 他者の参加、貢献、成功を助ける。	・このユニットで取り組む、自分の社会問題について考える ・タンザニアでの体験の紹介から、何を感じるかを対話する ・それぞれの生きがいについて考える	生きがいチャート (Canva) タンザニアで撮影した写真
2 3 4 5	Criterion A 探究と分析	○ Research skill さまざまなメディアから情報源を探し出し、それを評価する。	・課題解決の必要性を説明し、正当化する ・課題解決のために必要とされるリサーチの主要な点を述べ、優先順位をつける	各自で調査文献を見つける (インターネット、図書館を利用)

			・課題解決のヒントとなる、ひとつの既存製品の主要な特長を詳しく述べる ・先行研究の主な結果を提示する	
6 7 8	Criterion B アイデアの 発展	○ Thinking skill 複数の見方・考え方で問いやアイデアを検討する。	・デザインのアイデアを考える（スケッチやリストを作成） ・アイデアを比較し、最適なものを選ぶ ・最終的なデザイン図を作る（寸法や詳細を含める） ・作成するための計画を立てる（材料やツールを考える） ・作図 ・宮大工の技術を学ぶ（講演会：2時間）	東京書籍 『新しい技術・家庭科技術分野』 P.20-P.86 参照
9 本時	Criterion C 解決策の制作 導入	○ Communication skill 敬意を持って意味のあるフィードバックをする。 ○ Self-management skill まず行動し、試行錯誤する。	・生きがいチャートの改善 ・社会問題の解決策の改善 * ワールド・カフェ形式の対話（5分×3回） ・ポスター作成（A3 日本語と英語） 1. ターゲット・社会問題・SDGs 2. 生きがいチャート 3. 設計図 4. 完成図（解決策の説明） ・Peer Assessment	Canva
10 11 12 13	Criterion C 解決策の制作	○ Self-management skill 集中力と健康を保つために、時間と気が散る要因を管理する。	・時間やリソースを無駄なく使い、他の生徒もそれを見てソリューションが製作できるような計画について簡単に述べる ・ソリューションの製作にあたり、優れた技術的スキルを示す ・意図した通りに機能し、適切に提示されたソリューションを、計画に従って作成する ・ソリューションの製作にあたり、選択したデザインや計画に変更を加えた部分を列挙する ・ポスター作成	Canva

14 15 16	Criterion D 評価	○ Self-management skill 自分（たち）の学びや行動を振り返り、評価する。	・作ったものを評価する（デザイン要件を満たしているか確認） ・ユーザーや他の人からのフィードバックを集める ・改良点を考える（次にどう改善できるか） ・プロジェクト全体を振り返る（学んだことをまとめる）	Google forms スプレッドシート
----------------	-------------------	--	--	--------------------------

6. 本時の展開（9 時間目）

本時のねらい：

過程・時間	教員の働きかけ・発問	学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）
導入 (5分)	タンザニアへの支援協力の経験から分かったことを発表する（4名）	代表者のプレゼンを聴く	プロジェクターを使用する
展開 1 (15分)	ポスターを作成する。 1.生きがいチャートの画像を貼る 2.社会問題、ターゲット、SDGs をまとめる 3.完成予想図作成 4.それぞれの項目からキーワードを探す 5.問いを立てる	説明をして、その後サイレントモード（10 分間）に設定 個人の作業に集中する	10 分間のタイマーを設定する
展開 2 (20分)	「他の人の考えを聞き、改善できる点を探します。」 「5 分間で、グループ内のすべての人が発表します。」 「アイディア交換し、その都度、改善します。」 「それぞれが発表、フィードバックをもらってください。」	ワールドカフェ形式 2～3 人のグループ 5 分のアイディアの交換 毎回、メンバーをすべて入れ替えて、3 回行う。	話しやすい雰囲気をつくる
まとめ (10分)	「今日の対話で得た気づきを一言で共有しましょう」	全体発表 (ショートシェア)	数名の生徒に、感想を発表してもらう

7. 資料（教材）

- 生きがいチャート（Canva テンプレート）→ 生徒が前回までにまとめた内容を振り返る
- タンザニア研修での写真・動画・体験談→ 対話の出発点として提示
- Canva：ポスター（日本語＋英語）→ A3 サイズ：ターゲット・社会問題・SDGs、
生きがいチャート、設計図、完成図（解決策の説明）
- Chromebook → Canva によるポスター作成・発表

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

○知識・技能（技能面）

- ・ Canva 等のツールを用いてポスターを正しく作れるか

○思考・判断・表現

- ・ ワールド・カフェで得たフィードバックを取り入れ、改善点をポスターに反映できているか
- ・ 「生きがい」と「社会問題解決」の関連を、表現として明確に示せているか

○主体的に学習に取り組む態度

- ・ 積極的にコミュニケーションを取ろうとしているか
- ・ 他者の意見や考えに耳を傾けているか

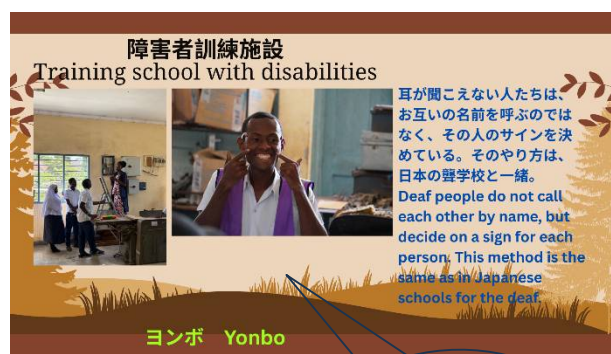
9. 学校外との連携

厚生労働省 ものづくりマイスター事業： 群馬地域技能振興コーナーから宮大工講師派遣

10. 学びの軌跡（児童生徒の反応・変容、感想文、作文、ノートなど）

● 私の感じたタンザニアを授業で紹介したスライド：

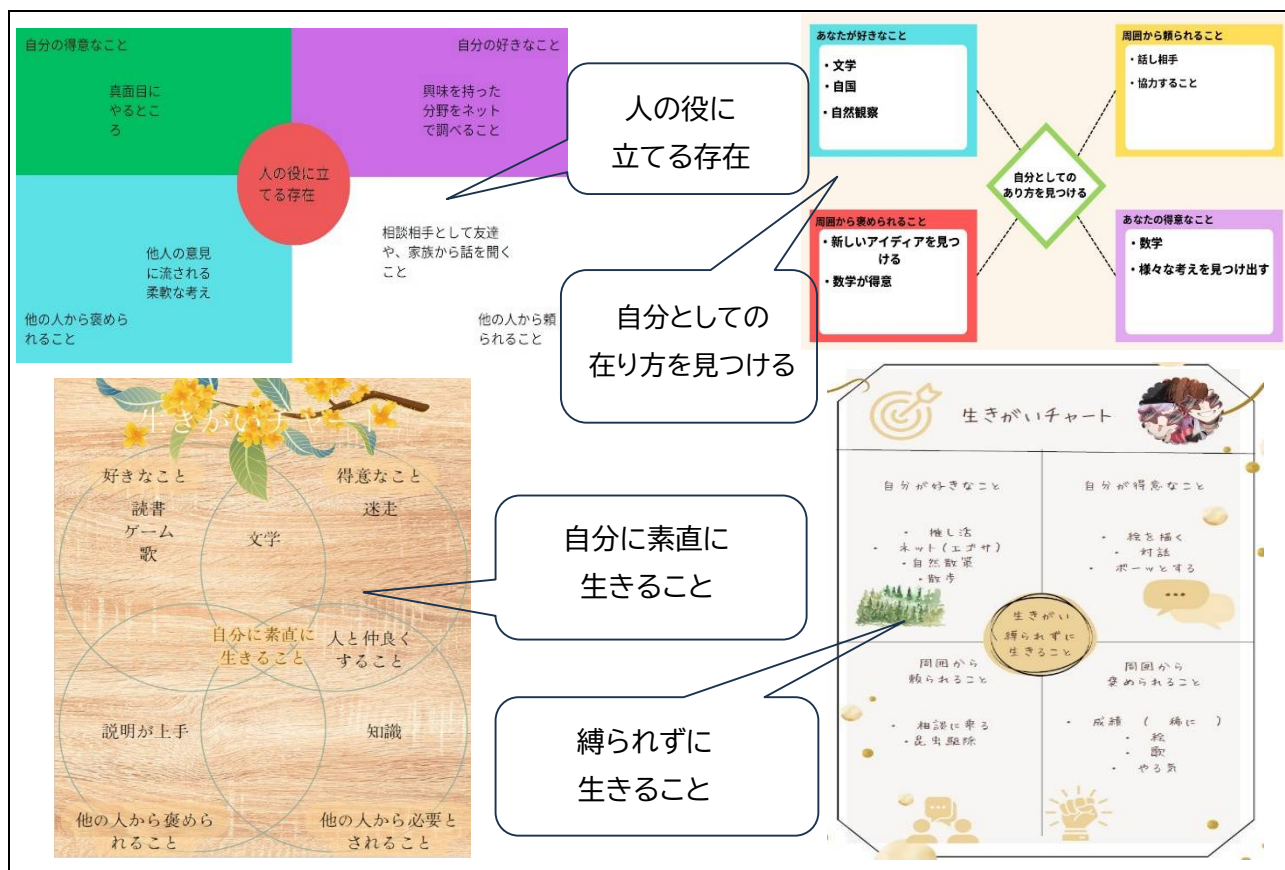
* 吹き出しは生徒の感想です



● タンザニアの話をした後の生徒の生きがいチャート：

- 好きなこと ⇒ ○自分の得意なこと ⇒ ○他の人から必要とされること（世界が必要とすること）
- ⇒ ○他の人から褒められること（報酬を得られること）

これら4つが揃うとあなたの中に、何が生まれますか？という問いを生徒に考えさせた



【本時または単元について、個人で振り返ったことを記載】

11. 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか	国際協力の現場を実際に訪れることで、現地の状況を理解し、ニーズ調査がしっかりと行われていることが分かりました。そこでは支援するのではなく、人々との協力を大切にしていることに感銘を受けました。生徒にも、まずは「知ること」から始め、一方的な支援ではなく、お互いに助け合い、一緒に学んでいく気持ち大切にすることを伝えようと思いました。
12. 苦労した点	タンザニアで体験したことが多く、生徒に伝えたいことが今年度の授業内では収まらなかったことです。来年度以降も引き続き、学習に落とし込んでいこうと思います。
13. 改善点	一度に様々な出来事を話しすぎてしまったので、分野や内容をそれぞれの学年で分けてもよかったです。また、生徒がタンザニアの人々と繋がる活動を今後取り入れたいと思いました。
14. 成果が出た点	自分たちとは異なる環境やバックグラウンドを持つ同世代の存在を知ること、 「自分とは？」 や Well-being について見つめ直す機会になりました。
15. 自由記述	物質的には恵まれた日本にいても、幸せを感じにくいのはなぜかと不思議に思っていました。今回タンザニアを訪れ、幸せな雰囲気を経験することで、人生を豊かにするものは、モノの豊かさではないことがよく分かりました。そこには、自然、気候、多様な文化や価値観に触れることであり、日本でもできることです。自分の考える視点次第で、生活は豊かにも、不幸にもなると感じました。

参考資料・使用教科書:「デザイン」指導の手引き / MYP: 原則から実践へ

東京書籍 『新しい技術・家庭科 技術分野』